

○民主党の新人事決まる

民主党の新しい人事が決まりました。私は政策分野に移り、民主党「次の内閣」で文部科学大臣を担当することになりました。党としての目標は二つ。政策にメリハリをつけて、国民に分かってもらい、国民運動にまで高められる政治活動に皆が一丸となること。さらに、現状バラバラの野党を、民主党が中心になってまとめあげ、選挙区調整を前提に、野党がそろって安倍政権に対峙できる体制を作ること。この二つの目標を是が非でも実現することだと思っています。

○メリハリが大事なエネルギー政策

ルーマニアの国際会議を終えて、北欧を周りました。デンマークでは風力を中心に 30%が再生エネルギーです。これを近い将来に 50%にする国会合意ができ、原発はありません。1980 年代から 40 年間かけて、拠点化した十幾つかの大規模火力発電所から、分散型小規模発電に切り替えました。現在 1000 か所以上の小規模ユニットといくつかの海上沖合風力発電所がエネルギー供給を支えています。小規模ユニットの地方展開の基本は、地元参加型です。風力発電などの立地では、投資資本の 20%以上が、地主や漁業、農業組合などの地元資本の参加を認可条件にしていることに特徴があります。今後は、風力発電の沖合展開を進めるそうです。2020 年までに再生可能エネルギーの割合を 50%まで引き上げる国会合意がなされました。

一方、同じ北欧のフィンランドでは、電力の 27%を原子力で賄い、さらに 2 基の増設が計画されています。ヘルシンキからボスニア湾沿いに、車で 3 時間あまり、既に 2 基の原発が稼働しているオルキオト島に行きました。ここでは、さらにもう一基の原発建設に加えて、オンカロと呼ばれる使用済み燃料の最終処分場が建設途中にあります。岩盤をくり抜きながら地下 480 メートルまでジグザグに掘り進んだ 5 kmに及ぶトンネルを降りていきます。このベースから横穴を四方に展開し、さらに筒状の縦穴を掘っていました。鉄と銅で頑丈に作られた筒状の容器に使用済み燃料が入れられ、それぞれの縦穴に格納される予定だそうです。今後 100 年間、フィンランド国内の原発から出る廃棄物だけをここに格納し、その後は、粘土ブロックで埋め戻して封印をし、10 万年の歳月を管理し続ける前提です。このことが、今年のフィンランド国会で改めて決議される予定だと言います。放射能自体

を減ずる科学技術が見出されない限り、私たちは、この 10 万年という歳月を覚悟しなければならないことを実感しました。「本当にできるのか？」案内してくれた技術担当者に質問をしてみたら、「そんなことは、やってみないと分らないよ。」と、答えが返ってきました。

10 万年はどうにもならない。だからこそ、日本の原発依存は、最小限かつ最短で終息させることです。再生エネルギーの導入は、本気で集中投資がなし得る環境を作るために、発電拠点の小型分散化の原点にむけて、法律で誘導すること。中途半端に迷っていないで、ただちに決断が必要だというのが私の結論です。

○ミャンマーに見る日本外交

ミャンマー人口の 4 割近くを占め、山岳地帯に住むカチンやカレンなどの少数民族と、軍事政権との和解交渉の妥結が近づき、少数民族の指導者達と、関係の NGO の代表が、これからの地域開発を議論するために、山を下りて、軍事政権の影響下のないタイのチェンマイに集まることになった。この機会に、中川さんにも話の中身を聴き取って欲しいと言うのです。急遽、タイのチェンマイに飛びました。彼らと改めて議論をすると、日本の外交が見えてきます。日本の援助は、軍事政権の顔色を見て、その意向の中でしか実現しない。私達少数民族のための援助だというのはウソで、実際は、軍事政権の力を拡大させるための援助としか受け取られていないという現実を、中川さん、どう判断するかと、問い詰められました。日本の姿勢は、中国の次に悪いと言う NGO まで出てくる始末です。日本は、武力紛争ではなく、人道的な支援や社会開発などソフトパワーで国際貢献をする「人間の安全保障」を看板にこれからの外交理念を作ろうとしている最中です。この理念を貫くためには、身を切る勇気と、ゆるぎないガッツが要ります。しかし、外交現場の現実には、あまりにも事勿れ、ご都合主義がまかり通っていて、看板倒れの現実に胸が痛みました。軌道修正です。

○民主党チャリティーゴルフコンペのご案内

日時 11月20日(木) 8時07分スタート
場所 ライオンズゴルフ倶楽部(亀山市両尾町603)
チャリティー基金 1,000円
参加費他、詳細は民主党三重県第2区総支部ゴルフコンペ事務局までお問い合わせください。

電話:059-381-3515

メール:nakagawa@cronos.ocn.ne.jp